

議会情報便

カワサキ



No.239



発行日
令和7年7月31日
発行
川崎町議会

編集 議会広聴・広報委員会



「行くぞっ!いざソーラン!!」

2P

6月会議
移動手段の確保へ

4P

議会ライブ中継
スマホで見れるって知ってた?

6P

町政を問う
再編統合計画

19P

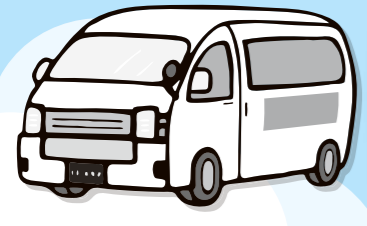
声を想いを
町内産そばにスポットを



デマンド交通
試験導入

身近に

安心・便利を



会議は、10日から13日に開きました。
提案された議案は、条例改正案2件、補
正予算案1件、人事案1件を慎重に審議し、
原案どおり可決しました。
ここではその一部を紹介します。

補正予算



1400万円
特別交付税8割措置見込み

利用方法

①事前に登録
(初回のみ)

②電話で予約
(一週間前から
前日まで)

③自宅から出発

④目的地に到着

■補正内容
町民の移動手段を確保するため、デマンド交通導入に必要な事務事業委託費等を計上するものです。

- 登録開始予定 令和7年8月1日
- 運行開始予定 令和7年9月1日
- 登録料 無料
- 乗車料 1回300円
- ・小中学生100円
- ・障がい者100円
- ・未就学児無料
- 運行区域 町内全域
- 運行体制 車両2台

■デマンド交通とは
利用者の予約に応じて運行する交通サービスです。決まった時刻表やルートはなく、必要なときに乗れるのが特徴です。乗り合いタクシーのような仕組みで、交通手段のない方の移動や、地域の交通空白を補う役割を担います。

在宅子育て支援給付金 265万円

■補正内容
乳幼児を家庭で育てる世帯に対し、経済的負担の軽減と安心して育てることが出来る家庭環境づくりを目的に、給付金を計上するものです。

■対象者

町内に住所を有し、保育施設等を日常的に利用していない、生後10カ月から満3歳に達した最初の年度末までの間にある乳幼児。

■給付金額

1人当たり1万円/月

人事案件

固定資産評価審査委員(再任)



すがや ひろあき
菅谷 大見 さん
(本荒町)

任期 令和7年7月28日から
令和10年7月27日まで
3年間

お知らせ

町内のスーパーが閉店したことを受け、町民バスの町内循環線に「薬王堂前」バス停を新たに設置しました。



▲皆さんの声をカタチに

公式LINE

傍聴アンケート始めました!

アンケートは2~3分で終わるから、気軽に回答してみてください!



これまで議場で傍聴された方にアンケートのご協力をお願いしていましたが、公式LINEからアンケートの入力ができるようになりました。スマートフォンやパソコンからライブ配信をご視聴された方は、ぜひアンケートにご協力をお願いします。

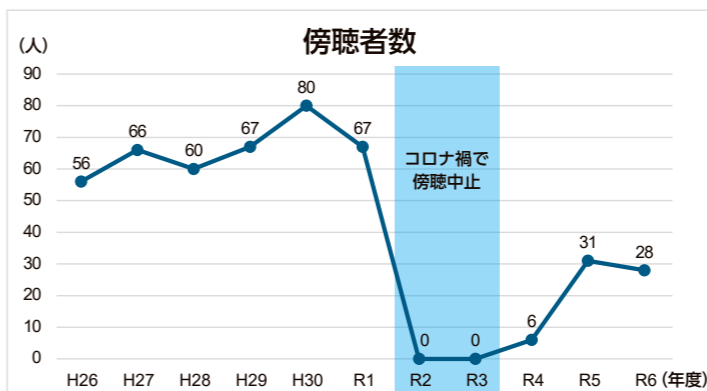
議会のライブ中継

LIVE

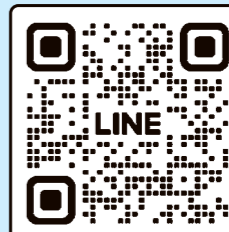
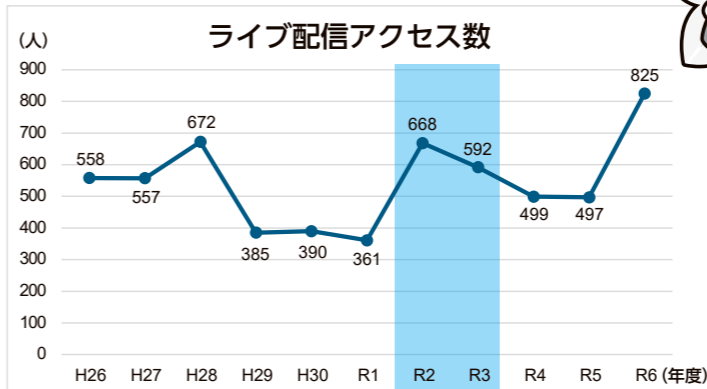


「スマホで見れる」って知ってた?

議会のライブ中継、録画映像は町のホームページで公開しており、スマートフォンやパソコンなどから視聴できます。町の公式LINEに登録すれば、LINEの通知からライブ中継に簡単にアクセスできます。なお、町の公式LINEでは随時、町の情報発信をしています。ぜひ登録してください。



実際に議場で傍聴する人よりライブ中継を見ている人が多いね



川崎町の公式LINEに登録してね!

登録者数690人! もっと登録者が増えたらうれしいな!

議会へ寄せられた声

一部を紹介しします

後向きな質問が多く 見ている嫌な気持ちになりました。(LINEより)

(LINEより)

これからの町の在り方、方向性について議論があればと思う。(令和7年3月)

(令和7年3月)

町での大切なこと どのように話し合い決めていくか、とても参考になりました。(令和6年3月)

(令和6年3月)

町の人口 に対して議員数が多すぎる。(LINEより)

(LINEより)

議員は 町民の声をもう少しリサーチして、町民の声を生かした議会運営を要望する。(令和7年3月)

(令和7年3月)

町の財政 が厳しいということがわかった。町を魅力的にするような税金の使い方であってほしい。(令和5年9月)

(令和5年9月)

議員の質問 の質が悪いと感じた。何を聞きたいのか簡潔にしてください。(LINEより)

(LINEより)

質問 に対する町長または課長の回答が曖昧、答えになつていないと感じるときが多々あります。(令和6年6月)

(令和6年6月)

これから も、わかりやすい配信をお願いします。(LINEより)

(LINEより)

議員 のほとんどが男性のなか、子育ての話題はきつかったです。(令和6年3月)

(令和6年3月)

町は 県内で最も消滅自治体の可能性が高く、厳しい自治体と聞いた。より良い町にしてください。(令和7年6月)

(令和7年6月)

アンケート へのご協力ありがとうございます。皆さんからいただいた貴重なご意見は、議会として真摯に受け止め、今後の議会運営・議会改革・施策提言など、町政をより良い方向へ導けるよう活用させていただきます。

以前の質問確認

追跡質問



さとう きよたか 議員 佐藤 清隆



町政を問う

一般質問

9人の議員が質問しました

●一般質問とは
町政全般の執行状況を質し、施策の提案や意見を述べ、時には是正を求め、町政をより良い方向へ導くものです。

問 女性管理職の登用は

答 長い取り組みが必要

問 昨年の6月会議で女性管理職の登用について質問しました。今年度の人事異動の際、検討したのか伺います。
答 町長
意欲や能力などを総合的に判断し、男女が均等になるように考えています。採用から人材育成、働き方の充実など、息の長い取り組みが必要です。意識改革を促すための取り組みは副町長を中心に進めていきます。

問 新たに副町長が就任しました。長年役場職員として勤務し、また管理職としても部下を指導管理してこられた。今後の女性管理職の配置については、適材適所で配置することを期待しますが。
答 副町長
職員の協力を得ながら、定員管理あるいは職員の適材適所な配置を検討していきます。

問 米増産転換への見通しは

答 再生産可能な価格を期待

全国的な米価高騰を受け、当町は令和7年産米の生産の目安を前年より34秒増加させ、生産量は3012トンに設定しました。

問 農家が減少するなかで増産を可能とするための町の施策は。
答 町長
生産の目安は需給の安定化を目指して設定しています。農家を支援するため、「低コスト稲作推進事業」と「スマート農業推進事業」を今年度から新設しました。

問 令和の米騒動に対する町の見解は。
答 町長
生産費の上昇を踏まえた適正価格を安定的に維持することが大切だと考えます。



▲高温障害で品質が心配

問 新米買い取りを打診して歩くケースがあると聞きますが。
答 農林課長
業者や個人が「J-Aより高く買う」と青田買いしているケースがあると聞いています。

問 高温障害は成長を阻害し、食味にも影響があると指摘する声がありますが。
答 町長
品質は低下しましたが、当町は高温障害の影響が少なく、食味にもほとんど影響はないと考えています。

問 政府の備蓄米放出を受け、全体的に価格が下がる傾向にあるようですが、町の生産者の声は。
答 農林課長
生産者からは「60万円なら再生産可能」と聞いています。バランスが取れるよう、国の政策を見守っていきます。

問 衛星調査の狙いは

答 漏水エリアも特定

問 懸案となっている川内地区の漏水箇所は特定できますか。漏水による損失額は。
答 町長
県内では既に実績がある試みなので期待をしていますが、これまでの損失額の算定は困難です。

問 施設方針で「料金体系の適性化」を打ち出していますが。
答 町長
老朽化が進む施設の更新を計画的に進める必要があります。その財源を確保するため、料金体系の見直しを進めるものです。

問 漏水の衛星共同調査は、老朽化による事故が全国で多発しており、タイムリーな施策です。今後の計画は。
答 町長
8月ごろに衛星調査とデータ分析、年内に報告を受け、その後に現地調査し、漏水箇所の修繕と進みます。



さとう しょうこう 議員 佐藤 昭光





さとう きよたか 議員 佐藤 清隆



問 学校再編統合計画は

答 早期に方針を示していく

昨年5月に小中学校の再編計画案が示されました。現在の児童生徒数、今後予想される入学者数などからも、やむを得ない判断だと受け止めました。



▲みんなで意識を高めて

問 今後を見据えて適切な学習環境を提供することは非常に重要です。各校に示された再編計画案は。

答 教育長

昨年8月の説明会で第二小を川崎小に、富岡中を川崎中に、令和8年度からそれぞれ再編統合する考えを示しました。富岡小は令和12年前後を目途に再編統合する考えを示しました。

問 再編計画案に対し意見の集約の仕方は。

答 教育長

説明会には毎回40名ほどの方に参加をいただき、さまざまな意見をいただきました。また、直接教育委員会に來られた保護者の意見や考え方も伺っています。

問 計画案とはいえず、統合まで2年弱しかなく、保護者や生徒から戸惑いの声もあつたようですが。

答 教育長

性急過ぎるという意見を多くいただきました。改めて保護者、地域の方に理解を得るには十分な時間が必要だと認識しています。

問 今年度から、入学する小中学校の学区制の緩和措置が取られました。統合されることを懸念し、統合先の学校へ入学した児童生徒もいたと聞きましたが。

答 教育長

以前からさまざまな理由で指定校以外に通う児童生徒もいました。それに加え、多様性あるいは多様な価値観に應えるような制度にしようとして、緩和措置をとりました。小中合わせで数名の児童生徒が変更しています。

問 学校の統廃合は人口減少、少子化による入学者数の減少が大きな要因です。統合時期を早期に決定し、最適な学習環境の整備、学力の向上、多様な学びへの支援などに取り組むべきだと考えますが。

答 町長

以前、統合してきたときと雰囲気違って、もう少し早い時期から働きかけ、意見交換をすべきと思いました。早い時期にこんな形でやることを明確にしていきます。



▲少人数の良さも理解できるが…

問 スキー場跡地活用は

答 使用できる範囲で

突然のスキー場閉鎖以降、跡地の活用に ついての情報が全く伝わってきません。議会との情報共有は必要だと感じています。

問 優先交渉権を受けた事業者との交渉は、どのように進展しているのか伺います。

答 町長

ヒヤリングを実施し、組織・財政・経営・技術・施設利用及び人材確保などの意見交換をしました。また、盗難被害後には、現状を踏まえた跡地利用計画の意見交換をしています。



▲通年利用の可能性は

問 魅力ある自然を活かした総合アウトドア施設としての通年利用はよいと思うが、どのような点が問題で調印できないのですか。

答 地域振興課長

事業者は当初すべての施設を使用したいとの希望でしたが、規模を縮小し経費を抑える方向で協議していました。しかし、盗難被害を受け、使用できる施設のみを使用する方向で進んでいます。

問 施設を貸す場合は修理して使用できる状態にするのが良いと考えます。現状復旧して貸す方針は。

答 地域振興課長

被害のあった施設はこれから修繕の見積もりを依頼します。その金額等を踏まえ、電気契約の変更も視野に入れながら判断していくこととなります。

問 事業者に対し助成金を出すなど、ある程度寄り添っていく必要があるのでは。

答 町長

今のところ資金援助は考えていません。子どもたちに負担が残らないよう、次の世代のことを考えながら、町が責任を持って片付けていかなければならないと考えています。

問 スキー場閉鎖に伴いサマーゲレンデ等にかかった辺地対策事業債の残債の額は。また返済義務は発生しないのですか。

答 町長

辺地対策事業債の残債は、4月時点で2億4180万円です。跡地活用は4つのケースを想定し、東北財務局と協議しています。場合によっては一括返済も仕方ないと考えています。



まはた ぜんじ 議員 眞幡 善次



▲東北最大だったサマーゲレンデ



おおもと はるひさ 議員
大本 治久 議員



問 バイパス整備を契機に

答 第6次総合計画に基づき

286号バイパス整備を契機に、町民参加と地域資源の活用をどう進めるか。町の将来像と構想、協働の姿勢を伺います。



▲山と水と空気を感じて

問 観光や農業など地域資源の活用方針は。

答 町長 第6次総合計画に基づき、自然や観光などを生かした実効性のある施策を推進します。

問 町の自然を生かしたサイクリングでの回遊性について伺います。

答 町長 仙南サイクルツーリズムと連携し、情報発信やサイクルラックも整備しています。



▲地域資源と暮らしを結ぶ架け橋

問 案内看板や二次元コードなどの整備・活用状況を伺います。

答 町長 昨年度設置した案内看板やパンフレットには、スマホで読み取れる二次元コードを設けます。観光資源のPRや交流促進に関する情報発信を行い、さらなる充実を図ります。

問 町民参加、地元事業者や他自治体との取り組みと、今後の展開は。

答 町長 まちづくり懇談会や企業訪問などを通じて町民・事業者の声を町政運営に生かしています。観光分野では近隣市町との広域連携により進めています。

問 町の将来像や地域課題について、町民主導で対話する場を定期的に実施したことはありますか。

答 地域振興課長 定期的な実施はありませんが、課題に応じた話し合いを通じ、顔の見える関係づくりに取り組んでいる地域もあります。

問 町民の対話を重視した「まちづくり町民会議（仮称）」導入について見解を伺います。

答 町長 以前にも町民会議のような場がありましたが、発言が少なく継続できませんでした。町民の声を聴くことは基本と考えていますので、検討していきます。

問

早期開店へ支援を

答

企業立地応援条例を基に

町内唯一のスーパーマーケットが今年2月に閉店し、町民生活に大きな影響を与えています。特に高齢者や車を持たない町民から不安の声が多く寄せられています。

問 次のスーパーがいつ開店するか未定と聞いています。事業者との調整、開店へのスケジュールは。

答 町長 事業者の担当者とは直接意見交換を行っています。12月中旬にオープンする計画だと伺っています。

問 買い物支援バスを運行していますが、運行状況や利用者数を伺います。

答 町長 支援バスは3月6日にスタートしました。5月末時点で延べ258人(実人数63人)が利用し、1日平均6人となっています。

問 1日も早い開店のために、町税猶予や減税措置等、支援策を検討すべきでは。

答 町長 採算性や競争環境などの条件を踏まえて計画しており、資金面で長引いていることではないと伺っています。「ようこそ川崎町へ企業立地応援条例」に該当するか確認しながら支援に努めます。



▲スーパー開店が待ち遠しい

問 「あらゆる対策を検討」と行政報告にありましたが。

答 地域振興課長 薬王堂への町民バス停留所新設や、デマンド交通の予算化も一連の対策となります。

問 町内で買い物ができず町外に出かけて買う姿を見ると、町の活力が失われていくように感じますが。

答 町長 買い物ができるよう行商の皆さんに何か支援できないか考えています。いろんな形で働きかけをしていきます。



さとう しんいちろう 議員
佐藤 新一郎 議員



▲当番は買い物支援バスで



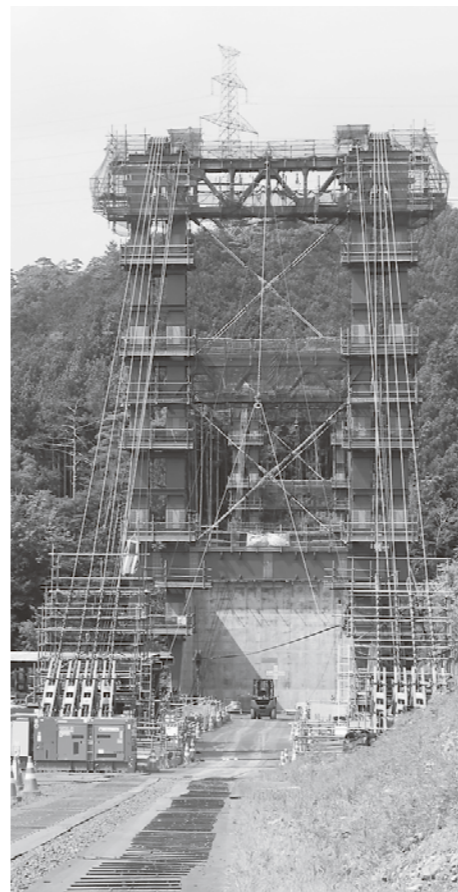
ま と ば かなめ
的 場 要 議員



問 バイパス工事視察を

答 体験的な学びの実現

国道286号バイパス建設南赤石工区は、昨年度から橋梁上部工事に取組み、進捗が目に見えるようになってきました。バイパス工事は、今後のまちづくりに欠かせない役割を持っています。



▲見て・聞いて・感じて

問 これまで仙台市川崎町広域連絡協議会等で現地視察を行ってきました。今後はまちづくりを考える機会と関心を持ってもらうため、校外学習の一環として取り組んでいくべきと考えますが。

答 教育長

未来を担う児童生徒にとって、地域の課題やまちづくりを学ぶよい機会となります。今後、各学校と打合せを行い、建設現場見学などの体験的な学びの実現に向けて取り組んでいきます。

問 現場で説明を受け質疑応答をすることで、本人や家族内での疑問点の解決や道路建設への理解も深まると考えますが。

答 教育長

このような大きな事業は誰が決めて、予算をどのように確保しながら進められてくるのか。たくさんの方の学びの機会がありますので、子どもたちの発達段階に応じて体験できるよう進めていきたいと思っています。



▲快適な服装で効率アップ

問 クールビズ通年化を

答 働きやすさを求める

問 ここ数年、全国的にクールビズ・ウォームビズ通年化を推進する自治体が増えてきました。通年化により、省エネや節電対策等、地球温暖化対策の一環としての役割を果たすことにもなると考えますが。

答 町長

通年化することは、職員の働きやすさを向上させ、省エネなどの取り組みにもなる働き方改革の一環とも言えます。職場の状況や業務内容に応じ、柔軟なクールビズ・ウォームビズ通年化の実施を検討していきます。

問 太陽光相談窓口は

答 利用状況に応じて

町民の使用していない土地に対して、太陽光発電事業者から貸借や販売の問い合わせが増えています。不安を感じている土地所有者もいるようです。

問 太陽光発電設置に関する相談窓口は。

答 町長

地域振興課を窓口として、事業を計画している場所や土地利用状況に応じて、関係各課と情報共有しながら対応しています。



▲土地の利活用は慎重に

問 当町では魅力ある職業がたくさんありますが、各事業者で人材不足や職人のなり手不足が大きな問題になっています。町内の専門業者を紹介するパンフレットはありますか。

答 町長

現時点でパンフレット等はありません。商工会とも意見交換会を実施しており、いろいろと検討されているところです。

問 町内の産業や職種には、次の世代に引き継ぐべきものが沢山あると思います。引き継ぐ後継者を育てることはできませんか。

答 町長

商工会と連携し小規模事業者の持続的経営の実現のため、事業継承に向けた政策を計画しています。



たかはし よしのり
高橋 義則 議員



問 町のメリットやデメリットはどんなものがありますか。

答 町長

メリットは二酸化炭素排出量の削減、固定資産税の増加、そして土地所有者の所得増加などです。デメリットは森林伐採による土砂流出のリスク、火災の恐れ、景観への影響などがあります。

問 後継者を育てる取り組みを

答 商工会と連携し政策を計画



▲体験をとらえて興味を



議員 昭雄 佐々木



問 私が聞いた地権者は全員が早期利活用推進派でした。町が把握している慎重意見は何かですか。また、地権者説明会がまだに開催されない理由は。

答 町長 1名の方から慎重な意見がありました。盗難事件を受け、町の方針を再び固める必要もあります。早めの実施したいと考えています。

問 スキー場を活用しない場合のリスクは。

答 町長 辺地対策事業債2億4000万円や索道、スキーセンター等の解体費用、令和10年3月まで借りている民有地の取り扱いなどです。

問 4月に契約できていれば、施設管理もされ抑止力が働き、盗難事故が未然に防止された可能性も考えられます。防犯対策に不備があったのでは。

答 町長 施設管理者として誠に申し訳なく、お詫び申し上げます。被害額は989万円でした。まだ高額な重機等もありますので、再び被害に遭わないよう対策に努めます。

問 スキー場跡地活用は

答 規模縮小で協議

問 3月の議会全体会議で「地権者から慎重に進めるようとの声もあり時間を要する」と町長から説明を受けました。数名の地権者から「早く活用しないとスキー場跡地が荒れてしまつ」と伺っています。

答 町長 町民の貴重な財産でもあるスキー場施設を、いつどのように活用する方針ですか。

答 町長 今具体的な日時はまだ決まっています。



▲早期の利活用が待たれる

問 冬に働く場所がなくなり困っている方など、町民の悲痛な声を聞いています。町全体の経済損失の考えを伺います。

答 町長 令和4年度の人員費は5000万円以上でした。宿泊業等の影響も大きいと認識していますが、スキー場経営には多額の費用が必要であり、総合的に判断し、スキー場を閉鎖しました。

問 優先交渉権を得た事業者は「グレンデの一部だけでも構わないので借地してほしい」と話しています。

答 町長 施設維持には多額の費用が掛かります。規模を縮小した計画を事業者と意見交換しているところです。

問 地域資源で健康づくり

答 支援の在り方を検討します

山城遺構や青根自然の森公園等には安全に配慮した散策ルートが設けられており、高齢者から上級者向けのトレイルまで利用できるよう工夫されています。当町ならではの地域資源は、他市町に誇れる豊富です。

問 心拍数を管理し筋力を鍛える「クアオルト」というウォーキングを導入する考えは。自然・歴史・観光などの地域資源を活用した持続可能な地域づくりのモデルになると考えますが。

答 町長 町民が手軽に運動できる事業を開催していきますが、参加人数は十分とはいえません。まずは、健康推進員の協力をいただきながら、運動の習慣化を図ります。クアオルトの導入は、その次の段階で検討します。

問 本年度、総合アウトドアメーカーのフレンドエリアに当町が登録する予定です。当町の自然や文化遺産を発信することで、交流人口の創出にも期待が持てますが、その概要は。

答 地域振興課長 メーカーの会員数は昨年12月時点で116万人、全国で128のエリアが登録されています。会員向けに観光・フィールド情報が発信され、交流人口の増加が期待されると考えています。



議員 麻子 下斗米



▲「クアオルト」で健康推進

※クアオルト…ドイツ発祥の自然環境を活用した健康づくり手法で、観光と健康づくりを組み合わせた新たな地域振興手法として注目されている。

問 軟骨伝導イヤフォンを

答 早々に導入したい

問 耳周辺の軟骨の振動を通じて音が聴こえる「軟骨伝導」を応用したイヤフォンを、窓口等に設置する考えは。優しさのある「コミュニケーション」が実現するだけでなく、業務効率の向上が見込めると考えますが。

答 町長 これまでも分かりやすい会話を心掛けてきました。さらなるサービス向上のため、早々に軟骨伝導イヤフォンを窓口を導入し、町民が安心して利用できる環境整備に努めます。



▲耳穴をふさぐず聞こえやすい

総務民生常任委員会

調査日 5月16日

国保川崎病院の運営状況

調査事項①

その他医業収益に期待

【調査結果概要】

令和6年度の総収益は、8億8238万円。費用は8億9352万円となっていて、3条経常利益はマイナス1614万円となりました。一般会計から繰

入金は3億5000万円となっている状況です。マイナスになった

主な要因は、人事院勧告による職員給与費の増加によるもの。また、材料費の増加も影響しています。入院・通院共に町内利用者が多く、



▲受け入れ体制の充実を

【委員会意見】

町民からの要望が多い整形外科の充実をはじめ、訪問医療についてもさらなる拡充を図ってください。また、その他医業収益への取り組みには、大きな期待があることから積極的に進めてください。診療体制は今後も働き方改革の影響が考えら

れることから、引き続き医師・看護師の確保にも取り組むことを望みます。

数年前から空調設備修繕を行っていますが、建設から約30年経過していることを考慮すれば、大規模修繕も含めた計画を検討してください。

国土調査事業の現状 職員配置のバランスを

調査事項②

【調査結果概要】

当町の国土調査事業は、昭和54年度から開始し、調査進捗率は全体で約80%となっています。県内35市町村のうち30市町村は調査完了としており、比較す

ると遅れている状況です。令和5年度からは新規地区の調査を1年

おきに実施しています。おきに実施している状況で、担当職員が1名となったことから、税務課固定資産税担当者との協体制度を構築することで、調査継続を可能



▲調査継続の判断も

【委員会意見】

現在の未調査区域は主に山林で、複数人が所有する土地で相続登記がされていないことや法定相続人の特定、通知等の事務処理に時間を要すること。また、土地所有者の高齢化等により山林管理が行き届かないこと。急傾斜地など危険な箇所や山

奥で容易にたどり着けない箇所もあり、調査自体が難しい土地が残っている状況です。

今後、継続的に取り組むためには、担当職員や引継ぎ等も含め調査体制をどうすべきか職員全体のバランスを考慮しながら判断してください。

産業建設教育常任委員会

調査日 5月13日

森林管理制度の状況 保全への意識醸成を

調査事項①

【調査結果概要】

森林経営管理制度は、手入れの行き届いていない森林を町が森林所有者から経営管理の委託を受け、林業経営に適した森林は地域の林業経営者に再委託し、

適さない森林は町が管理をする制度です。

町の森林総面積は2万5277畝で、そのうち民有林は1万2531畝(61%)、さらに民有林のうち人工林は5125畝(23.8%)となっています。



▲荒れた森林を管理制度で

【委員会意見】

現在、電力事業者が送電線鉄塔の建設工事を進めており、工事用道路も整備されています。山林の整備で、この道路を利用できれば作業効率は向上します。そうすれば森林価値も上がるので、工事を終えても道路を利用できる環境を望みます。

小規模な森林所有者と自伐型林業に取り組む住民との連携は、森林管理と地域振興の両立において重要な鍵になると捉えています。担い手を育成するための研修会など、森林資源の活用、保全に対する意識の醸成を図る活動も検討してください。

温泉施設の現状 管理のあり方を検討

調査事項②

【調査結果概要】

青根温泉の7箇所の源泉(不忘の湯、新名の湯、大湯、花房の湯、山の湯、蔵王の湯、新湯)のうち、山の湯が枯渇、不忘の湯が足湯専用のため、5箇所の源泉から

集めた温泉を、管理室・混合泉貯留槽で一括管理し、各温泉旅館等へ供給しています。

近年、施設の修繕・更新費用が増加し、事業経営を圧迫する要因となっています。一部の源泉では、井戸内部の詰



▲安定的な供給のためにも

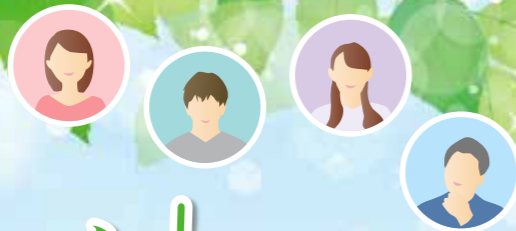
【委員会意見】

自然資源との調和を図りながら事業を展開していきけるよう、施設の老朽化対策・長寿命化を計画的に進めてください。また、突発的なトラブルに対応しなければならぬ職員の負担軽減を図るため、施設の状況や異常などを現場以外でも確認できるように

きるような仕組みを構築するとともに、停電や災害などに備えた対応策も検討してください。温泉受給者との意見交換会は重要な機会です。本年も開催し、温泉受給者にも事業運営に参画していただけるよう議論を深めてください。

みなさんの

「声も想いを」聴かせて



今回は古閑地区の
基盤整備事業に併せて
設立された「ふるせき
ファーム」の皆さまから
ご意見を伺いました。



▲地域ぐるみでブロッコリー出荷

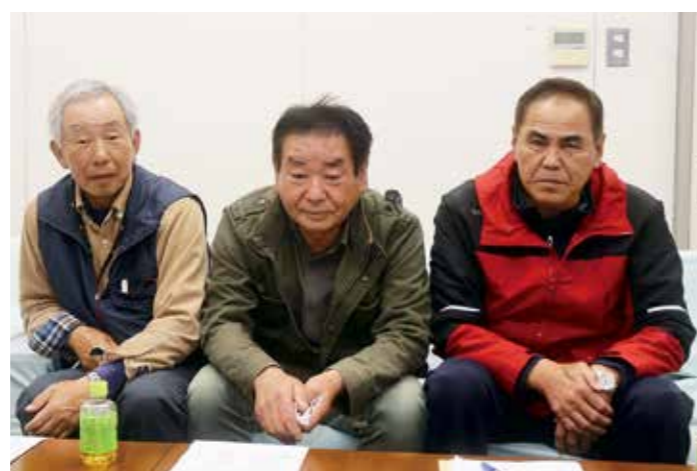
スマート農業を導入して労働力不足を解消し、若い人材の確保につなげたい。

ふるせきファームの課題

事務作業が多く、今後は専任の事務員がいると助かる。

今の農業政策は不安定で、その中の経営は非常に厳しい。

基盤整備が進めば耕作面積も増えます。労働力、機械設備なども不足している。



左から高橋繁男さん(古閑)、大宮正洋さん(古閑)
岡田熊吉さん(古閑)

「これからのまちづくり 町や議会に望むこと」

「中山間直払」に取り組み集落協定の地区で事務作業をまとめて、ネットワーク化の推進。

代掻きすると石が出てくる田んぼもあるので改善してほしい。

サツマイモのキュアリング施設(熟成する施設)を仙南地域で作ってほしい。

町内産そばのほとんどを生産している。生産者にもスポットを当ててほしい。



今回いただいた貴重なご意見・ご要望は、町政へ反映できるよう尽力いたします。

◆農事組合法人ふるせきファーム

令和3年10月に川崎町で初めて設立された農事組合法人。現在、会員数9名、平均年齢72歳。米、そば、さつまいも、ブロッコリーを生産。基盤整備した農地を若い世代に継承するため、10年後の農業を見据えて日々奮闘しています。

議員講座

これからの地方議会の役割と課題／予算審議と決算審議

7月3日、4日、県自治会館で議員講座が行われ、当議会から11名が参加しました。参加議員の報告から二部を紹介します。

3つの着眼点

大本 治久 議員

議員には、限られた財源をどう予算配分するか、優先順位をどうするか、財政を見る視点を持つことが求められています。

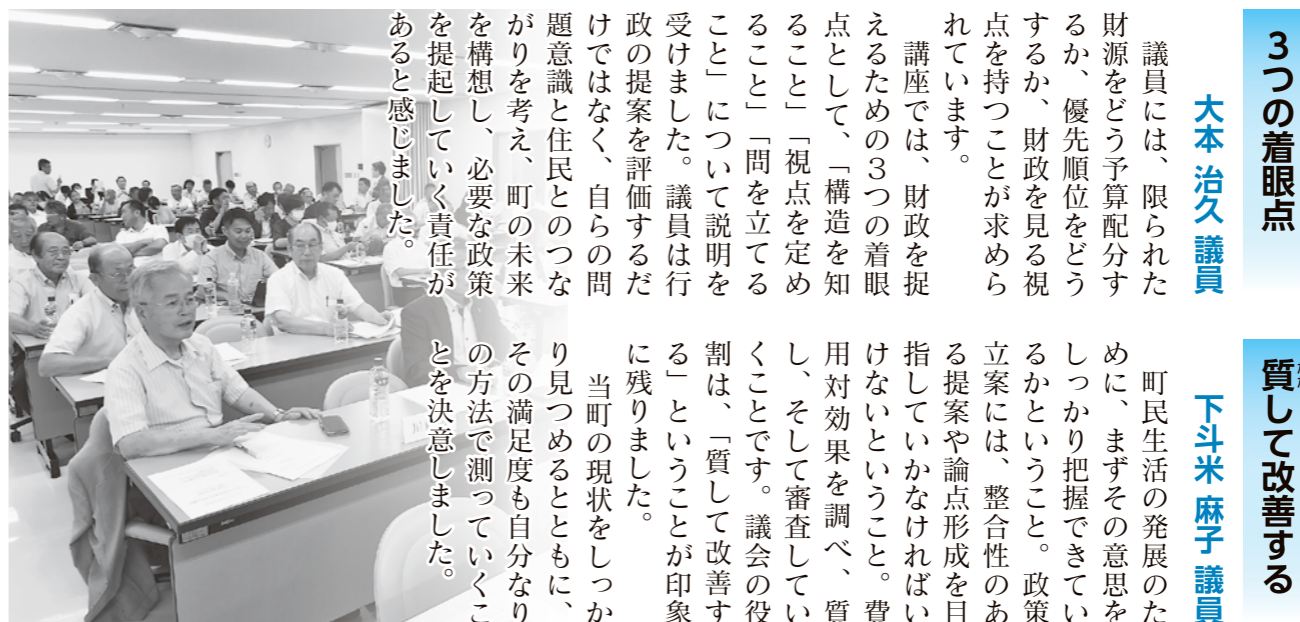
講座では、財政を捉えるための3つの着眼点として、「構造を知ること」「視点を定めること」「問を立てること」について説明を受けました。議員は行政の提案を評価するだけではなく、自らの問題意識と住民とのつながりを考え、町の未来を構想し、必要な政策を提起していく責任があると感じました。

質して改善する

下斗米 麻子 議員

町民生活の発展のために、まずその意思をしっかりと把握できているかということ。政策立案には、整合性のある提案や論点形成を指していかなければいけないということ。費用対効果を調べ、質し、そして審査していくことです。議会の役割は、「質して改善する」ということが印象に残りました。

当町の現状をしっかりと見つめるとともに、その満足度も自分なりの方法で測っていくことを決意しました。



仙南・巨理常任委員長研修

町村議会の運営について

7月10、11日、白石市で仙南・巨理地方合同の研修会が行われ、当議会から6名が参加しました。参加議員の報告から二部を紹介します。

日々研鑽を重ねる

佐藤 清隆 議員

講演は議会運営の注視点、パワハラや個人情報取り扱いなど多岐に渡るものでした。社会の情報化は急激に進んでおり、現状の町民ニーズに合った情報を伝えなくてはならないことを改めて確認しました。

議会としての「質」を高めながら、議員としても日頃から研鑽を積み、レベルを上げていかななくてはと強く感じました。

役割分担を明確に

的場 要 議員

3つの分科会に分かれた2日目は、「常任委員会の運営と所管事務調査」について意見交換を行いました。運営方法は各自自治体で違いがあり、委員会での役割分担などを明確に定めているところなどは参考にしたいと思いました。また、タブレット導入の有無で執行部とのやり取りなどに違いを感じ、議会運営等も含め学びを深める機会となりました。



お知らせ

議会を傍聴してみませんか

議員は、議場でどんな発言をしているか。また、どんなまちづくりを考えているか、今後の町の方向性を直接聞くことができる良い機会です。ぜひお越しください。

※次回の会議は9月9日(火)~19日(金)
一般質問は9月10日(水)・11日(木)
午前10時、再開の予定です。

議会ライブ中継 配信中

(傍聴者は6月会議7人、ライブ中継は232アクセスでした。)

詳しくは、議会事務局まで

TEL(0224)84-2301

掲載写真を募集します

本紙の「町の風景」(裏表紙)に掲載する写真を町民の方より募集します。写真をご提供いただける方は、議会事務局までご連絡をお願いします。



※ご提供いただいた写真が必ず掲載となるものではありません。ご理解のうえでご提供願います。

※写真のタイトルは議会広聴・広報委員会で決定いたします。

町の風景



みなも
水面に溶ける静寂のアート

撮影場所:川音^{かわど}えんてい

撮影:原 太一郎さん(一般応募)

表紙の説明 「行くぞっ!いざソーラン!!」

川崎小学校運動会にて

撮影 広報モニター 佐々木 和人さん

議会映像配信



議会の様子が
ご覧いただけます。



発行:川崎町議会
編集:議会広聴・広報委員会

〒989-1592
宮城県柴田郡川崎町大字前川字裏丁175番地1
TEL(0224)84-2301・FAX84-6789
E-mail:kawasaki2@town.kawasaki.miyagi.jp

印刷:柳津田印刷